

第2学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「あいての考えを引き出す しつもんをしよう」 教材名「あったらいいな、こんなもの」

2 単元の目標

身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。（〔知識及び技能〕(1)オ）

話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。（A(1)エ）

考えた道具について聞き合い、質問への返答から考えを具体的にする学習の中で、言葉への関心を持ち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ）	①「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。（A(1)エ）	①考えた道具について聞き合い、質問への返答から考えを具体的にする学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

考えた道具について聞き合い、質問への返答から考えを具体的にする。この教材では、道具の説明と質問で詳しくなった考えの記録を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

使う人・場面・働きの欄を示す。空想であることを確かめ、友達の案を否定する質問ではなく知りたいことを尋ねる。想定する難しさは、絵の上手さや実現可能性だけで評価する。評価では、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっているかを、道具の説明と質問で詳しくなった考えの記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全7時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○相手と話す目的を確かめ、聞いて知りたいことや話す材料を出す。単元の終わりに残す記録を確かめ、学習の見通しをもつ。	学習状況を見て支援する。
第2次	2～3	○空想の道具の働きを絵とメモで説明する。必要な語や材料を集め、関係を整理する。	知①（言葉・文字・資料の扱いを確かめる活動）
第3次	4～6 （本時）	○空想の道具の働きを絵とメモで説明する。聞き手が使う場面や働きを尋ね、話し手は返答しながら足りなかった説明を補う。聞いた内容を相手へ言い返して確かめる。	思①（発言・活動中の記録・作成物）
第4次	7	○聞き手が受け取った内容を話し手に返す。伝わらなかったところを聞き返し、言い方や聞き方を試し直す。学習で確かめたことを別の文章や場面でどう使うかを話す。	態①（学習前後の記録と見直しの理由）



6 本時の指導 (4/7)

(1) 本時の目標

話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。(A(1)工)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	相手と話す目的を確かめ、聞いて知りたいことや話す材料を出す。 ○「その道具を使う人は、どんなことができるのですか」 【めあて】考えた道具について聞き合い、質問への返答から考えを具体的にします。 〈予想される児童の反応〉 ・形は分かったが、使い方をもっと知りたい。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「その道具を使う人は、どんなことができるのですか」 空想の道具の働きを絵とメモで説明する。聞き手が使う場面や働きを尋ね、話し手は返答しながら足りなかった説明を補う。聞いた内容を相手へ言い返して確かめる。聞き手が受け取った内容を話し手に返す。伝わらなかったところを聞き返し、言い方や聞き方を試し直す。 〈予想される児童の反応〉 ・形は分かったが、使い方をもっと知りたい。 ・質問されて別の使い方も考えた。	使う人・場面・働きの欄を示す。空想であることを確かめ、友達の案を否定する質問ではなく知りたいことを尋ねる。 想定する難しさ：絵の上手さや実現可能性だけで評価する。 評価では、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっているかを、道具の説明と質問で詳しくなった考えの記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 道具の説明と質問で詳しくなった考えの記録を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・質問されて別の使い方も考えた。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「その道具を使う人は、どんなことができるのですか」。中央は、道具の説明と質問で詳しくなった考えの記録に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

